

東国における 武士勢力の成立と展開

東国武士論の構築 思文閣史学叢書

山本隆志 著

▶A5判・384頁／定価6,825円（税5%込） ISBN978-4-7842-1601-7

2012年2月刊行

武士研究は社会経済史的在地領主制論から国家史的職能論へと変化してきたが、それらをふまえた政治史的論究が求められている。本書では、東国武士を武士勢力としてとらえ、京・鎌倉での活動と連動しながら本領で法会・祭礼を主催するなかで政治的支配力を形成していることを、具体的に論じる。

※ 内 容 目 次 ※

序 章 東国武士研究の視座

軍事貴族論について／関東武士と京・鎌倉／本領樹立と社会権力化／武士の「家政」／「東国」について

第一章 北関東における武士勢力成立の政治史 ——新田氏成立の政治史的考察——

源義国の都鄙往反／義国・義重の婚姻／義国の在地活動／新田荘設立と地主職／新田義重の在地領主化

第二章 内乱のなかの武士勢力成立

宇都宮朝綱の在地領主化

宇都宮の政治的位置／宇都宮朝綱と宇都宮神宮寺一切経会／所領の形成／平貞能の宇都宮領での活動

千葉常胤の地域的社会権力化

千葉常重・常胤の所領編成と政治的枠組／内乱期における千葉常胤の武力と所領／千葉庄における本領体制

第三章 関東武士の都・鄙活動 ——宇都宮頼綱——

宇都宮朝綱の在京活動／宇都宮氏の京宅／荘園・公領の知行

第四章 関東における武士と法会・祭礼との関係 ——足利鰻阿寺・宇都宮神宮寺の一切経会を中心に——

源姓足利家と鰻阿寺一切経会／宇都宮家と宇都宮神宮寺一切経会／祭礼・法会執行と武士の関与

第五章 関東御家人那須家の成立と東・西での展開 ——関東那須家と京・西国の那須一族——

結城白河文書中の那須文書—現段階での確定—／鎌倉・南北朝期の関東那須氏／京・西国における那須氏の展開

第六章 上野国新田荘世良田宿の存立構造

鎌倉時代中期の新田氏／世良田の宿と市／社会勢力としての大谷道海—長楽寺・世良田宿との関係／得宗勢力と世良田

第七章 東国の宿と馬市・馬喰

幕府法の宿駅規定／宿の開発／馬・馬喰

第八章 荘園領主知行の後退と武士勢力展開の新局面 ——鎌倉後期～南北朝期における常陸国信太庄を中心に——

東寺の信太庄知行方式／武士勢力の信太庄知行／在地武士の文書発給とその背景

終 章 総括と展望

やまもと・たかし……1947年群馬県生まれ。1971年東京教育大学文学部卒業、博士（文学）。群馬県高校教諭の後、上越教育大学講師・筑波大学助教授を経て、現在は筑波大学人文社会系教授。主な著書に『荘園制の展開と地域社会』（刀水書房、1994年）『群馬県の歴史』（共著、山川出版、1997年）『新田義貞』（ミネルヴァ書房、2005年）、近著に『那須与一伝承の誕生』（共著、ミネルヴァ書房、2012年1月）など。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注 文 票		発 行 : 思 文 閣 出 版		(京 都 取 引 コ ー ド 3402)	
冊 数	冊	東国における武士勢力の成立と展開		本体6,500円（税別）	ISBN978-4-7842-1601-7
お 名 前			tel		
			e-mail		
ご 住 所	〒				
送本方法	☐ 書店経由（このちらしを最寄りの書店にお渡し下さい） ☐ 代 引（書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い下さい）				
				書店番線印	

戦国期権力佐竹氏の研究

佐々木倫朗著

戦国期佐竹氏の権力形成過程、一族衆や国衆等の活動、佐竹氏と地域社会との関わりや地域編成について、佐竹氏が発給した「知行充行状」・秋田藩家蔵文書等の史料を中心に考察することで、従来捨象されがちであった戦国期の権力編成の姿を浮き彫りにする。

▶A5判・304頁／定価6,090円

ISBN978-4-7842-1569-0

戦国大名武田氏の権力構造

丸島和洋著

戦国大名はどのような伝達ルートを通じて家中の内外との意思疎通を行ったのか？本書は甲斐武田氏を分析対象とし、家中を代表して他大名との外交を担った「取次」に着目。領国支配における意思伝達経路の検討と併せて、大名権力の中核を構成する家臣や、大名と家臣の関係について見つめ直し、戦国大名の権力構造を明らかにする。

▶A5判・432頁／定価8,925円

ISBN978-4-7842-1553-9

※戦国期東国の都市と権力

市村高男著

思文閣史学叢書

東国戦国史の雄である後北条氏に対決した下野の小山氏、下総の結城・山川氏、常陸の佐竹・多賀谷・土岐・岡見氏、武蔵の成田氏などの諸権力を分析、それとの関連で都市（城下町）の実態を追求。

【内容】第一編 東国領土の権力構造／第二編 北条氏と東国領土／第三編 東国の戦国期城下町

▶A5判・580頁／定価11,340円

ISBN4-7842-0855-0

※統中世東国の支配構造

佐藤博信著

思文閣史学叢書

南北朝期から戦国期における東国の権力構造の諸問題を多方面から明かした論考18篇を収める。関東足利・上杉両氏の動向を中心に、内乱、家臣団をめぐる諸相、都市・寺社論。さらには下総光福寺文書・鐙阿寺文書・常陸穴戸家文書・扇谷上杉朝良文書・上総大野家文書などの史料論にもおよぶ論集。

▶A5判・358頁／定価8,190円

ISBN4-7842-0916-6

室町期東国社会と寺社造営

小森正明著

思文閣史学叢書

鎌倉府体制下にあった室町期の東国社会に、寺社造営事業と寺社領経済が与えた影響を考察。「香取文書」など中世東国の「売券」の分析に基づく成果。【内容】第1章 寺社造営の推進主体と鎌倉府／第2章 寺社造営の経済的基盤と鎌倉府／第3章 寺社領における有徳人と売買・貸借／第4章 寺社領経済と蔵本の活動

▶A5判・356頁／定価7,350円

ISBN978-4-7842-1421-1

日本近世の宗教と社会

菅野洋介著

奥州と関東を主に、戦国期以降の仏教・神道・修験道・陰陽道等と地域社会とのかわりを、東照宮や寛永寺を中心とした幕府権威をも視野にいれて考察。本所権威の在地社会への浸透、在地社会における諸宗教の共存と対抗、民衆宗教の展開とそれを規定する社会情勢、そして在地寺院など宗教施設の「場」としてのあり方を追求する。

▶A5判・380頁／定価8,190円

ISBN978-4-7842-1572-0

増補・改訂 南北朝期公武関係史の研究

森茂暁著

南北朝期の公家政局の構造、および朝廷と幕府との関係を、豊富な史料をあげて実証的に読み解き、その後の中世政治史の発展を決定づけた、1984年文獻出版刊行の名著を増補・改訂して復刊。増補にあたっては、32頁に及ぶ新補注を付し、旧版刊行後に見いだされた基礎データ等を収録。

▶A5判・612頁／定価9,450円

ISBN978-4-7842-1416-7

京都の都市共同体と権力

仁木宏著

思文閣史学叢書

中世京都の都市構造モデルを前提に、その変容のなかから町（ちょう）の成立を読み解く。自力救済社会における武家と都市民の対峙が、やがて公儀を創出し、都市共同体を確立させることを明らかにする。中近世移行期における自治、共同体、権力の葛藤を正面から見すえ、都市の本質を具体的に、理論的に分析した一書。

▶A5判・332頁／定価6,615円

ISBN978-4-7842-1518-8

室町・戦国期研究を読みなおす

中世後期研究会編

若手研究者が提示する研究の過去・現在・未来【内容】Ⅰ政治史を読みなおす〔公武関係を読みなおす〕松永和浩・桃崎有一郎〔都鄙関係を読みなおす〕山田徹・吉田賢司・平出真宣・尾下敏成Ⅱ社会史を読みなおす 西島太郎・清水克行・三枝暁子Ⅲ経済史を読みなおす 早島大祐・高谷知佳Ⅳ宗教史を読みなおす 大田壮一郎・安藤弥

▶A5判・408頁／定価4,830円

ISBN978-4-7842-1371-9

※戦国期関東公方の研究

阿部能久著

思文閣史学叢書

関東公方の長である関東公方権力の戦国期から江戸期初頭にかけての諸問題の解明に取り組む。公方発給文書の様式変化にみる権力構造の実態、鶴岡八幡宮・鐙阿寺や禅宗・一向宗などの寺社勢力との関係、関東公方家の後裔である喜連川家の幕藩体制下の位置、さらに武家故実書『鎌倉年中行事』の成立背景を探索。

▶A5判・320頁／定価5,985円

ISBN4-7842-1285-X

中世東国の支配構造

佐藤博信著

思文閣史学叢書

鎌倉府の歴史的な性格を決定づけた武州河越合戦、鎌倉府体制下の相模守護のあり方、国人層とその関係、奉行人の軌跡、古河公方足利氏を生み出した東国の内乱＝享徳の大乱の諸段階の検討など、室町・戦国期の政治過程を、更に鐙阿寺文書・正本文書・喜連川家文書・福田家文書などの関係史料を検討。

▶A5判・410頁／定価8,190円

ISBN4-7842-0554-3

江戸湾をめぐる中世

佐藤博信著

江戸湾西岸の問題の再検討と、江戸湾東岸の問題を取り上げ江戸湾を総合的に捉え、そこでの人と物の流れを時の権力者との絡みから再検討した11篇。多数の関係史料により、権力闘争を生み出す江戸湾における社会的な富とは一体何であったのかを考察し、当該地域において実際に活動していた氏族の存在とその歴史的な性格（専門職能）を解明。

▶A5判・270頁／定価5,880円

ISBN4-7842-1045-8

安房妙本寺日我一代記

佐藤博信著

これまで所蔵史料の未公開なこともあって十分な歴史的検討がなされてこなかった千葉県安房郡鋸南町にある日蓮宗寺院妙本寺。その歴代住職のなかで、戦国時代の一宗教者として際だった足跡を残した日我（永正5年～天正14年）の一代記を古文書や記録などの諸史料を用いて年代記（クロノロジー）風に記述し、日我の実像に迫る。

▶46判・212頁／定価3,150円

ISBN978-4-7842-1373-3

中世長崎の基礎的研究

外山幹夫著

【2011年12月刊行予定】

中世長崎、特に肥前国西南部の松浦郡・高来郡・彼杵郡に着目し、松浦氏・有馬氏などの在地武士団の成立・発展、領国支配の実態や南蛮貿易の推移について論じ、その独自性を明かす。長崎大学名誉教授、長崎市史編さん委員会委員長を務める著者が長年の研究成果をまとめた一書。

▶A5判・410頁／定価7,875円

ISBN978-4-7842-1589-8

中世京都の空間構造と礼節体系

桃崎有一郎著

貴人と牛車ですれ違う場合の正しい作法は？参内するときはどこで牛車を降りればよいのか？中世の京都で実践された礼節体系の考察を通じて、中世京都の空間構造を明らかにし、室町殿権力の形成・展開過程をも論ずる。【内容】中世武家社会の路頭礼・乗物と公武の身分秩序／中世における朝儀出仕と里内裏周辺空間秩序 ほか

▶A5判・584頁／定価7,560円

ISBN978-4-7842-1502-7

武士と騎士 日欧比較中近世史の研究

小島道裕編

武士と騎士の比較は比較史の中ではポピュラーなテーマといえよう。しかし、日欧の研究者が、研究を持ち寄り突き合わせるという機会は稀である。本書は人間文化研究機構連携研究「武士関係資料の総合化」の一環として、日仏で行われた国際シンポジウムの成果。具体的な資料に基づき、多様な側面から武士と騎士をとりあげた19論考。

▶A5判・512頁／定価9,450円

ISBN978-4-7842-1507-2

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。